

研究「日本における家族関係と家庭教育プログラムのあり方」

簡略化した図式による説明

2003年 ミシガン州立大学大学院卒業論文から 山下いづみ

日本人の価値観

調和、世間体、両親尊敬、伝統、
子供中心の家族

日本人の考え

- * 家族問題は家族のこと
他人が介入するのは？
- * 世間にしられたくない
- * 無知とおもわれたくない

問題提議

- * 子育てのしかたがわからない、
たのしくない
- * 家族構成、社会環境の変化
- * 児童虐待、DV、青少年の犯罪
- * 学業のストレス
- * 登校拒否、ひきこもり

現状

- * 価値を保つことが難しい
- * グループから個へ
- * 問題を抱えている人は、周り
の人たちからサポートを得ら
れず、よけい問題が深刻に

「悪くなる前に対処する」予防、防止型のサポートが大切

サポートシステム

- * 幼児からお年よりまで、全ての人々に
- * 各地域でニーズにあわせて

情報、知識提供（講座、講演など）

- * ペアレンティング
- * 人間の成長、子供の成長
- * 家族関係、家庭財源管理の仕方
- * コミュニケーションスキル

家族問題などを、個人、家族
を尊重しつつ、公に問題提議
し、サポートをしていく

専門性をもつサポーターの育成

- * 個人、家族関係など、総合的にみ
ることができ、サポートプログラ
ムを計画、実行、評価ができる。

個人の成長、社会情勢などに多種多様に対応できる「予防、防止型サポート」を目的とした

ファミリーライフエジュケーション（家族生活育プログラム）の導入が必要

ファミリーライフエジュケーション

アメリカで活発に取り入れられている個人、家族の生活向上のサポーター的役割を果たすプログラムです。

一人一人が健康で、よりよい社会、家庭生活がおくれるように、「自分で自分をサポートできるようにサポートする」ことを目的にしています。

心理学的な内面を見つめることと同様に生活環境や、家族構成をライフコース（社会性などで影響を受けた年齢別人生パターン）でみていきます。

幅広いアプローチで総合的に個人、家族のケアをしていく、予防、防止型のサポートです。

社会情勢として考慮すること

- * 少子化問題（家族と企業のケア）
- * 介護サポート（お年よりとその家族のケア）
- * 男女共同参画
- * 外国籍をもつファミリーのケア



アメリカの例

- * 行政、大学機関と公共サービスの連携
乳幼児の親対象（ACTS プロジェクト）
親対象（PPS）
- * 大学機関と公共サービスの連携
乳幼児から大人対象（エクステンション）
多数にわたっておこなわれている

日本での可能性

- * 子育て支援センター
- * こどもの居場所プロジェクト
- * 次世代育成支援
- * 公民館の家庭教育講座
- * 幼稚園、保育園との協力
- * 小、中、高校の家庭科授業

生活の基盤となる
ファミリーサポートの充実を！

そこから
日本人が大切にする
人とのハーモニー、調和がうまれます。